

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成30年11月19日

施設名	青少年体育館	所管課	教育委員会生涯学習課
-----	--------	-----	------------

1 施設の概要

指定管理者名	(特非)高知県青年会館	指定期間	平成27年4月1日～32年3月31日
施設所在地	吾川郡いの町八田1767		
業務内容	<p>・施設の利用の許可に関すること ・施設及び設備の維持管理に関すること ・青少年の活動が安全かつ円滑に行われるための支援に関すること ・主催事業を計画し、実施すること</p> <p><平成29年度主催事業> ・青少年体育館スポーツ交流会 ・小学生スポーツ教室(卓球、新体操、バレーボール、バドミントン、バスケットボール、ミニ野球) ・体カづくり教室(スカッシュバレー、卓球、バレーボール、バドミントン、ラージ卓球) ・小学生男子バレーボール教室 ・小学生・中高生バスケットボール教室 ・第20回小学生ドッジボール秋季大会 ・初心者スポーツ教室 ・初心者トレーニング講習 ・スポーツ鬼ごっこ教室 ・小学生男女バドミントン教室(チーム名:天王バドミントンJr) など</p>		
施設内容	<p>青少年の健全育成及び県民の健康増進並びに体育の振興を図り、併せて社会教育活動の用に供することを目的としている。 利用開始日:平成3年12月1日 建築物:鉄筋コンクリート一部2階 施設概要: 1階アリーナ 1,728㎡ バスケットボール2面 バレーボール3面 バドミントン10面 卓球15台 ハンドボール1面 テニス3面 トレーニング室 144㎡ 会議室72㎡×2室 更衣室・シャワー室 2階観覧席 1,500席</p>		
職員体制	職員:館長1名 事務長1名 副館長1名 指導員3名 事務員1名 合計:7名 ※館長・事務長は高知青少年の家と兼務		

2 収支の状況

(単位:円)

		H28年度(決算)	H29年度(決算)	H30年度(予算)
収入	県支出金	38,665,000	37,717,000	37,951,000
	事業費収入	612,713	603,546	612,000
	収入計	39,277,713	38,320,546	38,563,000
支出	事業費	406,543	537,808	680,000
	管理運営費	17,910,961	17,064,850	16,672,000
	人件費	17,959,393	18,169,096	18,353,000
	消費税	3,000,073	2,548,057	2,858,000
	支出計	39,276,970	38,319,811	38,563,000
使用料収入		4,502,850	4,481,370	4,316,000

3 利用実績

(1)利用団体数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平均
団体数	1,688	1,575	1,508	1,553	1,830	1,631

(2)利用者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平均
人数	66,994	65,964	60,926	65,449	70,484	65,963

4 業務の評価

項目	施設からの状況説明に対する評価・意見
①利用拡大のための取り組み	<p>①各施設の特徴を生かしたプログラムの充実 主催事業では幼児と小学生低学年対象の「ミニ野球教室」を新たに挑戦したり、「新体操」では保護者を巻き込み発表会を行うなど、前向きな取り組みを行っており、評価したい。 施設利用者の相互の親睦を図るための「青少年体育館スポーツ交流会」に、新規事業である「スポーツ鬼ごっこ」を組み入れるなど、参加者同士によるコミュニケーションをとりやすくするための工夫がみられる。</p> <p>②効果的PR活動・・・ポイントを絞った学校・保育所への訪問、青年会館との連携で集客活動で、功を為している。</p> <p>③フォローアップ・・・利用者団体代表者に礼状で再利用を呼びかけている。継続して取り組んでほしい。アンケートでニーズを掴むようにしている。</p> <p>④学校との連携・・・県立農大や平成福祉専門学校、近隣の中学校の職場体験実習の一環として生徒を受け入れていることは評価できる。</p> <p>⑤地域社会との連携、融合・・・地域のスポーツクラブに対して、積極的に指導員が支援しており、夜間の利用者も増加している。清掃や夜間管理に地元雇用で利用者とのコミュニケーションを深めている等、従業員へも地域社会への貢献に対する意識の浸透がみられる。</p>
②利用者へのサービス向上のための改善策	<p>①利用者ニーズの把握・・・事務所前に意見箱を置き、年間を通じてニーズを把握している。また、ニーズの分析と把握はもとより、管理と対応の軌跡を残しておくことも大切である。</p> <p>②利用者サービスの向上・・・掲示板を活用し、スポーツ情報や体育館関係記事を掲示して情報発信をしていることは評価できるほか、指導員との会議を定期的に持ち、利用者ニーズ等について話し合う機会を設けている。 指導員の発想を大切にし、利用ニーズに応えるための内容を企画・立案させていることは、利用者目線の対応であるため、評価したい。</p> <p>③職員の資質・指導力の向上・・・トレーニング講習は交代で担当し、人前で話すことに慣れるとともにコミュニケーション力の育成に力を入れていることは評価できる。</p> <p>④障害者や高齢者への配慮・・・障害者の共同作業所が毎週定期的にポッチャ競技やランニングに取り組んでいる。ミニ野球教室では障害のある幼児等が複数参加し、安全面等に留意しながら開催していることは評価できる。 まだ実施の規模は小さいものの、インクルーシブ教育にも目を向けている点は評価できる。今後、アダプテッドスポーツについての事業も拡大できれば、施設の可能性はさらに拡大すると考える。</p>
③施設の運営について	<p>①職場環境について・・・環境美化、器具庫等の整理整頓に重点的に取り組んでいる。定期の打ち合わせ会議を行い、職員個々の思いや提案を話し合うことができている。</p> <p>②施設面について・・・巡回点検等、具体的に細やかな行動に努めており、安全意識が高い。一方で、施設や設備の老朽化が課題である。</p> <p>③業務運営改善の取り組み・・・業務の合間に草木の剪定などを行い、経費削減に努めている。また、少ない人数で効率的に業務ができるように、器具の配置場所をわかりやすくするなどの工夫を行っている。</p> <p>④施設運営へのボランティアの活用・・・無理に募らなくとも、日頃の利用者への姿勢により、施設へのファンができ、活用する機会がでてくると考えられる。それは、「小学生スポーツ教室」や「スポーツ交流大会」において、保護者がスタッフとしての参加していることに現れている。</p> <p>⑤指定管理者の管理運営状況・・・施設の安全面については、職員による巡回、目視による床面のささくれやトレーニング器具の安全点検など常に気をつけており、事故がゼロであった点は大きいと評価できる。衛生面については、アルコール消毒液を設置し、感染症に備え、大会時に使用した入場者用スリッパは必ずタオルで拭くなど清潔に保つ努力をしている。</p>

④利用実績	<p>利用団体数は1,830団体、過去最高の利用数となっている。利用者数は70,484人で過去2番目に多い数となっている。</p> <p>利用については、土日は大会、平日は地域のサークル活動により、午後から夜間にかけて、殆ど毎日満杯状態である。特に夜間のフットサルの利用が増加している。空きの多い平日午前中の利用を促進することが、今後の利用者数増の鍵である。</p> <p>健康志向等の高まりでトレーニング室の利用者が平成28年度8,825名から29年度9,276名と増加した。登録者も2,472名となった。リピーターも多く存在する。</p> <p>東京五輪も控えており、スポーツの楽しさをより一層PRし、スポーツ人口の増加に繋がることを期待する。</p>
⑤収支の状況	<p>平成28年度と比較して、施設使用料収入は21,480円減少した。</p> <p>管理代行料は、予算額をほぼ全額執行した。(県に735円返還)</p> <p>平成29年度決算額(県支出金):37,716,265円</p>
<p>総合評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p>	<p>青少年の健全育成並びに県民の健康増進及び体育の振興を図り、併せて社会教育活動の用に供する」という基本理念のもと、スポーツを通して感動してもらえる場面を作れるよう努力している。</p> <p>体育館、トレーニング器具ともに老朽化しているが、清潔感と安全・安心感に配慮した整備・管理がされている。まずは有る物を丁寧に扱うことを重要視している点は大いに評価できる。利用者からトレーニング器具の新調を願う声が多く、安全面も考慮して利用率をあげるためにも新調できるとよい。</p> <p>今後は利用者からの要望を取り入れながら、新しいスポーツ事業の開拓、公民館や保育園、障害者施設関係や老人福祉施設との連携など、更なる発展を期待する。</p> <p>施設を利用する団体・人数ともに過去の実績を上回る結果を残されており、健康促進という追い風もあるが、職員一人ひとりの弛まぬ努力や目標達成に向けた意欲が功を奏した形となった。また、所長をはじめとする職員のスローガンが「存在価値のある施設にする」ということを聞き、単に安価で便利に設備を利用してもらうだけでなく、青少年体育館の独自色を打ち出しているという機運も感じることができた。</p> <p>ただ、青少年の家と体育館は若年層の職員が多く、プロフェッショナルになるまでには相当の時間を要する。社会人としてなどの基礎力に関しても不十分な状態にあるため、多方面の専門家とのコラボや支援が必要となることが予想される。地域や地元高等学校・大学の専門家などを招聘し、専門的な知識や技術および新しい企画などに手を貸してもらいながら、健全で人の温かみを感じれる施設経営に力を注がれることを強く望む。</p>

- 【評価の目安】
- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 - B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 - C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 - D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

※「施設からの状況説明に対する評価・意見」欄には、各施設の品質向上及び利用者拡大に向けて、①から⑤までの項目に沿って、努力成果が見える点や改善が必要だと感じる点、その他特記事項をご記入ください。

また、他の参考になるような業務改善の取組については、総合評価欄にご記入ください。